

資料4 用語集

あ行

●IPCC

世界気象機関（WMO）及び国連環境計画（UNEP）によって設立された政府間組織である「気候変動に関する政府間パネル」のことで、気候変動に関する最新の科学的知見について評価を行い、定期的に報告書を作成しています。

●一般廃棄物

産業廃棄物以外の廃棄物のことです。一般廃棄物は「ごみ」と「し尿」に分類されます。

また、「ごみ」は商店、オフィス、レストラン等の事業活動に伴って生じた「事業系ごみ」と一般家庭の日常生活に伴って生じた「家庭系ごみ」に分類されます。

●イニシアチブ

率先した行動により、他者を導くことを指します。

●エコアクション21

環境省が中小事業者等の幅広い事業者に対して自主的に「環境への関わりに気づき、目標を持ち、行動することができる」方法を提供する目的で作成したガイドラインに基づく認証・登録制度のことです。二酸化炭素や廃棄物の削減、節水など環境負荷の軽減に積極的に取り組む企業や団体などを支援しています。

●エコカー

エコロジーカー（Ecology Car）の略称で、国の定めた基準を満たす、環境への負荷が小さい自動車です。

●エコドライブ

燃料消費量や二酸化炭素（CO₂）排出量を減らし、地球温暖化防止に向けた運転をする取組のことです。アイドリングストップや急加速・急発進の防止など運転操作に関わるものだけでなく、タイヤの空気圧チェックや燃費の把握など、自動車そのものの整備・点検に関する項目も含まれます。

●エコロジカルネットワーク

森林や農地、河川などの野生生物が生息・生育する様々な空間を連結した生態系のネットワークのことです。野生生物の移動・分散を可能とし、生態系の回復や生物多様性の保全を図ります。

●SO₂（二酸化硫黄）

石油や石炭などに含有する硫黄が、燃焼した際に酸化することで発生する物質です。高濃度の吸入により、呼吸器系疾患を引き起こします。

四日市ぜん息の原因物質でもあります。

●SPM（浮遊粒子状物質）

大気汚染防止法により、大気中に浮遊する粒子状物質のうち、粒径が10μm以下のものと定義されています。微少なため大気中に長期間滞留し、肺や気管等に沈着して呼吸器に影響を及ぼすとされています。

●温室効果ガス

大気中に含まれる二酸化炭素、メタン、一酸化二窒素など、温室効果をもたらす気体の総称です。

●カーボンニュートラル

二酸化炭素などの温室効果ガスの人為的な発生源による排出量と、森林による吸収量を均衡させることです。我が国では、2050（令和32）年までに温室効果ガスの排出量を実質ゼロにするカーボンニュートラルを目指すことを宣言しています。

●海洋プラスチック

海に流出したプラスチックごみのことです。

容易に分解されず環境にとどまり海洋生物を直接傷つけるほか、近年では波や紫外線により細かく砕かれたマイクロプラスチックが問題視されています。

●外来生物

人為的な影響により、本来生息していない地域に入り込んだ生物のことです。特に、在来の生態系に対して大きな影響を与える種は「侵略的外来種」と呼ばれます。国外から持ち込まれたものだけでなく、国内の他の場所から移動させられたものも含まれます。

●環境基準

環境基本法により「大気の汚染、水質の汚濁、土壌の汚染及び騒音に係る環境上の条件について、それぞれ、人の健康を保護し、及び生活環境を保全する上で維持されることが望ましい基準」と定められています。

●環境基本法

環境に関する最上位に位置する法律です。環境保全に向けた施策の基本となる事項や方法を定めることで、現在だけでなく、将来の国民の健康で文化的な生活の確保、さらには人類の福祉に貢献することを目的としています。

●環境パートナーシップ

環境問題の解決に向け、市民や企業、行政などが相互に連携・協働した取組のことです。

環境教育促進法により、環境保全活動、環境保全意欲の増進及び環境教育並びに協働取組等を効果的に推進するための拠点として、2004（平成16）年度より全国8か所で、地方環境パートナーシップオフィスを整備・運営しています。

●環境ホルモン

「内分泌かく乱化学物質」の通称です。

ダイオキシン類やポリ塩化ビフェニル（PCB）など、環境中に存在し、生物に対してホルモンのように影響を与えます。

●気候変動

気候変動とは、気温及び気象パターンの長期的な変化を指します。

また、IPCCにより、気候変動は地球温暖化の進行に直接関係して拡大することが示されました。

●緊急事態宣言

緊急事態宣言は、2020（令和2）年3月13日に成立した新型コロナウイルス対策の特別措置法に基づく感染拡大防止対策です。全国的かつ急速なまん延により国民生活や経済に甚大な影響を及ぼすおそれがある場合などに、総理大臣が宣言を行い、緊急的な措置を取る期間や区域を指定します。

●クリーンエネルギー

環境への負荷がない、あるいは少ないエネルギーを指します。太陽光や風力などの再生可能エネルギーのほか、有害物質の少ない天然ガス、水素などを燃料とする燃料電池、エネルギー変換効率の高いシステムに使用するエネルギーな

どが該当します。

●グリーン購入

製品やサービスを購入する際に、環境を考慮して、必要性をよく考え、環境への負荷ができるだけ少ない物を選ぶ購入方法のことです。2001（平成 13）年度から「グリーン購入法（国等による環境物品等の調達に関する法律）」が施行され、国等の公的機関が率先して環境物品等の調達を推進するとともに、地方公共団体や事業者、国民に対してもグリーン購入に努めることを奨励しています。

●クリーンディーゼル自動車（CDV）

従来のディーゼル自動車の課題であった、燃料の不完全燃焼による排気ガスの排出を一層低減したディーゼル自動車のことです。

ガソリンよりエネルギー変換効率が優れ、燃料代が安価な軽油を燃料とします。

●光化学オキシダント

工場の煙や自動車の排気ガスなどに含まれている窒素酸化物（NO_x）や炭化水素（HC）が、太陽の紫外線を受けて光化学反応を起こし発生する、オゾンやアルデヒドを総称して光化学オキシダントといいます。

●光化学スモッグ

日射や気温、風などの気象条件が重なり、光化学オキシダントが拡散されずに滞留し、高濃度となった状態をいいます。目や呼吸器などの粘膜を刺激し、健康被害を引き起こします。

●耕作放棄地

5年毎に調査が行われる農林業センサスにおいて、「以前耕作していた土地で、過去1年以上作物を作付け（栽培）せず、この数年の間に再び作付け（栽培）する意思のない土地」と定

義されています。農林業センサスでは5^{アール}a未満の農地は集計対象外のため、耕作放棄地には5^{アール}a未満の耕作放棄された農地は含まれません。

●固定価格買取制度（FIT）

経済産業省が2012（平成 24）年に開始した、再生可能エネルギーで発電した電気を対象に、電気事業者が一定価格で一定期間買い取ることを国が保証する制度です。

さ行

●再生可能エネルギー

太陽光・太陽熱・風力・地熱・水力・バイオマスなどの永続的に利用でき、温室効果ガスを排出しないエネルギーのことです。

●埼玉県川の国応援団

埼玉県が管理する一級河川において、ごみ拾い、草刈り、清掃などの美化活動を行う住民団体のことです。

●3R+Renewable

プラスチックに係る資源循環の促進等に関する法律（プラスチック資源循環法）における基本原則とされています。

従来の3R（Reduce：ごみの発生を減らす、Reuse：繰り返し使う、Recycle：資源として再利用する）に加え、Renewable（再生可能資源に切り替える）を実践することで資源循環型社会を目指します。

●次世代自動車

エコカーと同義です。電気自動車やプラグインハイブリッド自動車、燃料電池自動車などを指します。

●循環型社会

循環型社会形成推進基本法により、「天然資源の消費を抑制し、環境への負荷ができる限り低減される社会」と定義されています。発生したごみを資源として捉え、繰り返し利用することで、ごみがほとんど発生しない社会を指します。

●食品ロス

政府の「食品ロスの削減の推進に関する基本的な方針」により「本来食べられるにもかかわらず捨てられる食品」と定義されています。

●森林計画対象森林

森林の持つ、国土の保全、水源の涵養、生物多様性の保全、地球温暖化防止等の多面的機能を保全するため、森林法において森林計画制度を定めています。森林計画対象森林とは、この計画の対象とされる森林を指します。

●生態系ネットワーク

野生生物が生息・生育する様々な空間（森林、農地、都市内緑地・水辺、河川、海、湿地・湿原・干潟・藻場・サンゴ礁等）がつながる生態系のネットワークのことです。

●生物多様性

生物多様性とは、生きものたちの豊かな個性とつながりのことです。

生物多様性には世界全体で取り組むことが重要であることから、1992（平成 4）年に生物多様性条約が採択されました。生物多様性条約では、生態系の多様性・種の多様性・遺伝子の多様性という 3 つのレベルで多様性があるとされています。

●ゼロカーボンシティ

2050（令和 32）年にカーボンニュートラ

ルを目指す旨を表明した地方公共団体のことです。

●ソーシャルディスタンス

人と人との間に物理的な距離を取ることで、人が互いに密接に接触する機会を減少させる方策のことです。

た行

●第一次産業

農業や漁業、林業といった自然に対して働きかける生産に資する産業のことです。

●第二次産業

建築業や製造業といった、第一次産業で得たものを原材料として加工する産業のことです。

●第三次産業

金融、保険、卸売業、小売業、サービス業、情報通信業などといった、目に見えないサービスや情報などを提供する産業のことです。

●ダイオキシン類

ポリ塩化ジベンゾ-パラ-ジオキシン（PCDDs）、ポリ塩化ジベンゾフラン（PCDFs）、コプラナーポリ塩化ビフェニル（Co-PCBs）の総称です。

難分解性物質であることから、水環境や土壌に長期間残留します。人に対して甲状腺機能の低下、生殖器官への影響、免疫機能低下を引き起こすと報告されています。

●太陽熱利用システム

再生可能エネルギーである太陽熱を、給湯や冷暖房に利用するシステムのことです。

●脱炭素社会

カーボンニュートラルを目指す社会のことです。

●地域レジリエンス

物理学用語として使われるレジリエンスとは、外力による歪みを意味するストレスを跳ね返す力とされ、心理学用語として使われるレジリエンスとは、心的なストレスからの回復力や抵抗力を表す概念とされています。

本計画で用いる「地域レジリエンス」とは、災害や感染症などの地域が被るリスクをストレスとし、そのストレスに対応することができる能力を意味します。

●地産地消

地元で生産されたものを地元で消費する取組のことで、移動に要するエネルギーや二酸化炭素の排出削減にもつながります。

近年、消費者の農産物に対する安全、安心志向の高まりや生産者による販売の多様化が進む中で、消費者と生産者を結び付ける「地産地消」への期待が高まっています。

●秩父凹地帯

秩父山地のうち、南北約 13 km・東西約 15 km の四角形をなす秩父盆地を中心に北西-南東へ延びる細長い谷地形で特徴づけられ国道 299 号が通る地帯です。

●窒素酸化物 (NOx)

光化学スモッグの原因物質の1つです。

自動車や工場、火力発電所などで燃料を高温で燃焼した際に、含有される窒素化合物が酸化して発生します。

●中小水力発電

ダムを利用した大規模発電とは異なり、農業

用水や上下水道を利用した中小規模な水力発電設備のことです。

●典型7公害

環境基本法で「公害」として定義される大気汚染、水質汚濁、土壌汚染、騒音、振動、地盤沈下、悪臭の7公害のことです。

●トレンド予測

時系列データの長期的な傾向（トレンド）を推計する統計的手法のことです。

な行

●二次林

伐採や風水害、山火事などにより森林が破壊された跡地に、土中に残った種子や植物体の成長などにより成立した森林のことです。

●日本ジオパーク

ジオパークとは、重要で貴重な、あるいは美しい地質遺産を含む地域（公園）のことで、地質や地形に係る歴史や文化を学ぶ場所を提供しています。

日本ジオパークとは、日本ジオパーク委員会が認定する国内版のジオパークです。ユネスコ世界ジオパークとそれを目指す国内ジオパークからなります。

●燃料電池自動車 (FCV)

燃料電池で水素と酸素の化学反応によって発電した電気エネルギーを使いモーターを回して走る自動車です。走行時に発生するのは水蒸気のみで、二酸化炭素や窒素酸化物などの有害な排出ガスを出しません。

は行

●バイオマス資源

石炭などの化石資源を除いた、動植物由来の再生可能な有機性資源のことで、バイオマスとは、生物資源（bio）の量（mass）を表します。

●バイオマスプラスチック

バイオマス資源を原料としたプラスチック製品のことで。

●BAU（現状すう勢）

今後追加的な対策を見込まないまま推移した場合のことで。

●PM_{2.5}（微小粒子状物質）

大気中に浮遊する直径 2.5 μm以下の小さな粒子のことで。ガソリン車やストーブなどの燃料燃焼に伴い直接発生するほか、工場から排出される硫黄酸化物（SO_x）や窒素酸化物（NO_x）、揮発性有機化合物（VOC）が大気中で化学反応を起こし生じることもあります。

●BOD（生物化学的酸素要求量）

環境基本法に基づいて定めた水質環境基準の生活環境項目における水中の有機物の代表的な汚染指標です。

水中の好気性微生物が有機物を分解するのに必要とする酸素の量を指します。

●プラグインハイブリッド自動車（PHV）

「PHEV」とも略されます。従来のハイブリッド自動車に外部充電機能を追加し、電気自動車としての利用も可能とした次世代自動車です。

ま行

●マイクロプラスチック

一般的に5mm以下の微細なプラスチック類のことで。マイクロプラスチックには一次マイクロプラスチックと二次マイクロプラスチックの2種類があります。

一次マイクロプラスチックは歯磨き粉の研磨剤としての利用など、製品や製品原料として使用される微小なサイズで製造されたプラスチック類で、二次マイクロプラスチックとはプラスチック製品が自然環境中で劣化、摩耗することで発生するものです。

●マイ箸

自分で使う箸を携行し、割り箸の利用を抑制する環境に配慮した取組のことで。

●マイバッグ

買い物の際にマイバッグを携行し、レジ袋の利用を抑制する環境に配慮した取組のことで。

●マイボトル

水筒を携行し、ペットボトルや紙コップなどの利用を抑制する環境に配慮した取組のことで。

●マルチベネフィット

複数の社会課題を同時に解決することです。SDGsにおいては、ターゲットに対して統合的なアプローチを行うことで、複数ターゲットの同時達成につなげるという意味で注目されています。

●木質バイオマス

間伐などによる樹木の伐採や、土木工事の建設現場、木造住宅の解体時などに発生する木材

からなる再生可能な有機性資源のことで、木質バイオマスの燃焼により排出される二酸化炭素は、大気中から吸収し蓄積したものであるため、二酸化炭素排出量の増加にはつながりません。

や行

●遊休農地

農地法により、「現に耕作の目的に供されず、かつ、引き続き耕作の目的に供されないと見込まれる農地」、「その農業上の利用の程度がその周辺の地域における農地の利用の程度に比し著しく劣っていると認められる農地」と定義されています。

●ユネスコエコパーク（生物圏保存地域）

生物多様性の保護を目的として、ユネスコ人間と生物圏（MAB）計画の一環として1976（昭和51）年に開始された、豊かな生態系を有し、地域の自然資源を活用した持続可能な経済活動を進めるモデル地域のことで、

ら行

●リニューアブル燃料

廃食用油や植物油、動物油を原料とし、石油に混ぜることなく精製された環境配慮型の燃料のことで、